



よくある質問（AudioCodesのビジネスパートナー様向け）

目次

Microsoft Ignite 2017の発表とクラウドボイス戦略の変更点	3
新製品のMicrosoft 365 Enterprise（Eスイート）とは？	3
Microsoft 365の内容やマイクロソフトの戦略とは？	3
マイクロソフトの新しいIntelligent Communications構想（Unified Communications構想）とは？	3
TeamsでのIntelligent Communicationsのタイムラインについて	3
Skype for Business Online（Cloud PBX）をMicrosoft Teamsに移行させる理由とは？	4
マイクロソフトはCCEのコンセプトを見捨てた？	4
カスタマーはSkype for Business OnlineとMicrosoft Teamsの両方を使うことは可能？	4
カスタマーがSkype for Business OnlineからTeamsに移行する期限は？	4
Skype for Business Serverはどうなる？	4
3PIPとは？またこのプログラムの将来性とは？	5
AudioCodes One Voice for Microsoft 365 + CloudBond 365シリーズ	5
AudioCodes One Voice for Skype for BusinessからOne Voice for Microsoft 365へ変更する理由とは？	5

One Voice for Microsoft 365と互換性のあるAudioCodesの製品とは？	5
AudioCodesがCloudBond 365シリーズのデバイスを拡充する理由とは？	5
CloudBond 365の新シリーズに含まれるものとは？	5
CloudBond CCE with SfBからTeams Hybrid PSTNに移行には何が必要？	6
On-Premise、Hybrid、Cloud向けのサービス継続オプションは？	6
AudioCodesのビジネスパートナーの売上への影響と推奨措置	6
Microsoft Teamsが発表されたが、AudioCodesの製品選択にどんな影響を与えるのか？	6
AudioCodesのソリューションの価格設定は今回の変更の影響を受けるのか？	6
カスタマーの将来性を確保することはできるのか？	6
既存コネクティビティの進行中の取引に対して、今回のマイクロソフトの変更が意味するものとは？	6
進行中の取引に関してまず質問すべきこととは？	7
CCEが既に展開されていることについて、カスタマーに伝えることとは？	7
AudioCodesのソリューションの価格設定は今回の変更の影響を受けるのか？	7
変化するアーキテクチャをカスタマーに売り出す最適な方法とは？	7

Microsoft Ignite 2017の発表とクラウドボイス戦略の変更点

新製品のMicrosoft 365 Enterprise (Eスイート) とは？

今年7月にMicrosoft Inspireで発表されたMicrosoft 365とは、デスクトップからOffice 365に至るまでのマイクロソフト製品の全スイートを網羅したトップレベル製品の呼称です。これまではE5やSecure Productive Enterprise (SPE) と呼ばれていましたが、この新しい呼称により、マイクロソフトの『クラウドファースト、モバイルファースト』戦略を支える『One Microsoft』としてのメッセージ性が強く押し出されています。Microsoft 365 E5のような呼称となり、Microsoft TeamsやMicrosoft Phone Systemといった主要なすべてのワークロードを包括します。Microsoft 365 E5のライセンスを取得することで、ユーザーはオンプレミス (Skype for Business Server) やオンライン (Skype for Business Online/Microsoft Teams) でボイスワークロードを使用することができます。

Microsoft 365の内容やマイクロソフトの戦略とは？

マイクロソフトのねらいは、共同作業の現場や高度な機能が求められる通信の分野で優位に立つことであり、Slackのような機能を直接組み込もうとしています。共同作業における鍵の一つは、容易で効果的な通信環境です。現在、Skype for BusinessとMicrosoft Teamsにはかなり重複している部分があります。Teamsの合理化とさらなる機能強化を目指して、マイクロソフトはSkype for Business OnlineをMicrosoft Teamsに移行する予定です。この移行により、Teamsの通話や会議機能 (『電話システム』) が改善される見込みであり、『Phone System』と呼ばれることとなります。また、キャリアの基本的なPSTNサービスである『Calling Plans』の使用も可能となります。Phone Systemは世界中 (ほぼすべての国) で利用できますが、PSTN Callingについては現在のところ対応していない国もあります。

マイクロソフトの新しいIntelligent Communications構想 (Unified Communications構想) とは？

マイクロソフトはOffice 365で大成功を取っており、毎月1億人以上のビジネスユーザーがOffice 365を利用して日々の業務をこなしています。現在マイクロソフトは、クラウド上のSkype for Businessの機能をMicrosoft Teamsに導入することで、音声通話とビデオ通話の機能を完全に組み込み、チームワークのための単独のハブ機能を提供しようとしています。共同作業でチームが日々使用するアプリケーションにコミュニケーション機能を綿密に組み入れることで、AIやMicrosoft Graph、LinkedInやその他データ・認識サービスに留まらず、マイクロソフトはIntelligent Communicationsを実現し、通話体験や会議体験に革命をもたらそうとしています。 [Microsoft Teamsに関するFAQはこちらから](#)。

TeamsでのIntelligent Communicationsのタイムラインについて

現在のところ、マイクロソフトは具体的な日程を公表していませんが、12~18ヶ月後に、Skype for Business Onlineと技術的に同等の機能がTeamsに加わると考えられています (つまり2019年の初頭頃と考えられます)。これより後に、マイクロソフトはユーザーに対し、Skype for Business OnlineからTeamsへの移行をより積極的に促していくと思われます。

Skype for Business Online (Cloud PBX) をMicrosoft Teamsに移行させる理由とは？

現在のCloud PBXの基盤は基本的に、Microsoft CloudでのSkype for Business Serverのホストバージョンです。既存のプラットフォームではカスタマーのニーズに合わせて即座に拡大/縮小できず、また計画された機能やサービスを実現するために必要となる柔軟性も提供できません。その点でも、Microsoft Teamsのバックエンドは非常に優れており、本質的に拡大/縮小できるよう設計されています (Skypeユーザのコア部分)。

マイクロソフトはCCEのコンセプトを見捨てた？

いいえ、ただし変更点があります。マイクロソフトはSkype for Business OnlineからTeamsに移行しつつありますが、その目標は、現在のSkype for Business Onlineよりも優れた特徴や機能性を提供することです。これには、『Bring Your Own Trunk (BYOT/個人所有機器の持ち込み)』というコンセプトが含まれており、これを実現するためには『Direct Connect』と呼ばれる次世代の『CCEのような』接続性が必要となってきます。CCEの購入を検討している企業は、AudioCodes製品は設定を変更するだけでCCEとBYOTの両方がサポート対象ということ、引き続き念頭に置いておく必要があります。

カスタマーはSkype for Business OnlineとMicrosoft Teamsの両方を使うことは可能？

マイクロソフトがSkype for Business Onlineの取り扱いを終了 (日程は未公表) する前に、カスタマーにはSkype for Business OnlineとTeamsを併用できる期間が与えられます。この期間のある時点で、マイクロソフトはすべてのユーザーに対し、Skype for Business OnlineからTeamsへの移行を求めることとなります。SkypeとTeamsに関するIgniteでのセッションで示されたとおり、マイクロソフトはSkype for BusinessからTeamsへの移行の簡素化を進めています。[セッション内容のリンクはこちら](#)から。

カスタマーがSkype for Business OnlineからTeamsに移行する期限は？

マイクロソフトにより、Microsoft Teamsのロードマップが配布されます。これにより、カスタマーは各自のニーズに応じてTeamsの性能を見極め、Teamsへの移行計画を立てることができます。すなわち、カスタマーはTeamsへの移行について、各自のニーズに最もふさわしいタイミングを決めることができるということです。[Microsoft Teamsに関するFAQはこちら](#)から。

Skype for Business Serverはどうなる？

マイクロソフトは、Skype for Business on-premisesを使用しているカスタマーが存在し、その多くは、必要に迫られて一部のユーザーや地域向けにSkype for Business on-premisesを使用していることを認識しています。マイクロソフトは現在、次世代のSkype for Business Server on-premises (現在の呼称はvNext) を対象とし、2018年末までに新しいサーバーアップデートを提供する予定となっています (マイクロソフトの都合により日程変更の可能性あり)。マイクロソフトは現在、Skype for Business Serverのカスタマー向けの別バージョンを計画しており、この先数年の間はオンプレミスでの展開が進むと見込んでいることがうかがわれます。E5のライセンス一つで、カスタマーはオンプレミス、クラウド、あるいはハイブリッドで自由に展開することができます。[Microsoft Teamsに関するFAQはこちら](#)から。

3PIPとは？またこのプログラムの将来性とは？

マイクロソフトの3PIP（サードパーティ製IP電話）プログラムとは、IP電話機メーカーが端末のファームウェアを提出し、要件となる特徴や機能性の基準の順守について評価を得る認証プロセスのことです。この基準は3PIPのバージョンごとに異なり、資格を持つベンダーは各自のIP電話機モデルについて、本プログラムの要件を満たしているか、または上回っている必要があります。

AudioCodes One Voice for Microsoft 365 + CloudBond 365シリーズ

AudioCodes One Voice for Skype for BusinessからOne Voice for Microsoft 365へ変更する理由とは？

AudioCodesはOne Voiceのポートフォリオを拡充し、Skype for BusinessとMicrosoft Teamsの両方をカバーしていきます。拡充の結果、新しい呼称である『One Voice for Microsoft 365』は追加機能をサポートするので、Skype for Businessでサポートする以上の機能をサポートします。

One Voice for Microsoft 365と互換性のあるAudioCodesの製品とは？

サポートの対象となるAudioCodesの製品構成に変更はありません。Skype for Business Serverをサポートするポートフォリオは、Skype for Business Server vNextをサポートします。またSkype for Business Onlineをサポートする製品ポートフォリオは、Microsoft Teamsをサポートします。

AudioCodesがCloudBond 365シリーズのデバイスを拡充する理由とは？

市場におけるCloudBond 365ブランドの認知度は非常に高く、成功を取っています。弊社はこのメリットを生かし、現行の要件や将来のニーズをサポートする単一『シリーズ』を提供します。大切なことは、CloudBond 365シリーズのデバイスを導入することで、Skype for Business ServerやSkype for Business Online、Microsoft Teamsとの接続が、将来的にも確保できるということです。

CloudBond 365の新シリーズに含まれるものとは？

CloudBond 365 = 一般的に知られているCloudBondです。ハードウェアモデルに基づき最大5,000人のユーザーをサポートするオンプレミスのSkype for Business Serverを全面的に展開します。OPCHモデルにも展開可能であり、カスタマーはSkype for Business Server（オンプレミス）とMicrosoft Phone System（クラウド）の両方を利用できます。

CloudBond 365 CCE Edition = 現行のAudioCodes CCE Appliances（M800およびHP Server）のリブランドバージョンです。Skype for Business Online with Phone System（Cloud PBX）を使用中のカスタマーについては、マイクロソフトがサポートを継続することになっています。またTeams Voiceの機能が完全に同等のものになり、すべてのカスタマーがSkype for Business OnlineからTeamsに移行するまで、マイクロソフトがサポートを提供します。

CloudBond 365 Teams Hybrid PSTN = 次世代の最適化されたSBC/Gatewayで、Microsoft Phone SystemのTeamsがサポートを提供します。これにより、カスタマーは、オンプレミスのPSTNアクセスとTeams Voiceのサービスが利用できるようになります。CloudBondブランドでのご提供ですが、コアの部分はAudioCodes SBCが基盤となっています。

CloudBond CCE with SfBからTeams Hybrid PSTNに移行には何が必要？

デバイスの再設定とCCE bitsの停止が必要になります。カスタマーがスムーズに処理できるよう、AudioCodesはマイクロソフトと協力体制を取っています。

On-Premise、Hybrid、Cloud向けのサービス継続オプションは？

現在、AudioCodesはOVR for Skype for Business ServerとSkype for Business Onlineにより、サービス継続機能を提供しています。

AudioCodesのビジネスパートナーの売上への影響と推奨措置

Microsoft Teamsが発表されたが、AudioCodesの製品選択にどんな影響を与えるのか？

AudioCodesにとって、マイクロソフトと協力し、同社の戦略の変更点をサポートしていくことは弊社のDNAの一部であり、弊社がマイクロソフトのボイス領域に参入して以来、継続していることでもあります。AudioCodesの総体的な目標は、カスタマーにとって複雑なものの簡素化、及びカスタマーのニーズの変化に応じた最もスムーズな移行の方法の提供を保証することです。弊社の提供するソリューションに大きな変更はなく、Skype for Business ServerやSkype for Business Online、Microsoft Teamの将来的な方向性をサポートしている現行の接続性やデバイスを提供します。AudioCodesのビジネスパートナーは私たちと連携しながら賢明な選択肢を選んでおり、ともに機敏性や先進的なアイデアを持ち合わせていることを実証しています。

AudioCodesのソリューションの価格設定は今回の変更の影響を受けるのか？

いいえ、弊社の価格設定に変更はありませんが、追加的な提案や商用モデルをご用意しており、移行に伴う苦勞を軽減することができます。CloudBond 365の売上増加も見込んでいることから、セカンドレイヤーとしてユーザ管理が可能な『非依存型』のハードウェアを提供していく最適な方法も検討しています。

カスタマーの将来性を確保することはできるのか？

もちろんです！AudioCodes CloudBond 365シリーズのデバイスなら、OPCHやSkype for Business Online、Teamsに左右されず、カスタマーの将来性を確保することができます。実際、Skype for Business OnlineとTeamsの接続性を同時にサポートすることもできます。また弊社のIP電話とHuddle Room Solutionsは、上記3種すべてへの展開をサポートします。

既存コネクティビティの進行中の取引に対して、今回のマイクロソフトの変更が意味するものとは？

これは未定ですが、カスタマーがマイクロソフトを利用し、クラウドコミュニケーションを使用した別段階の進展を望んでいるかどうかによります。カスタマーが共存を必要とせず、最終的にTeamsへ移行することについて問題ないと考える場合は、変更は不要でしょう。もし共存が必要であると考えられる場合や、Teamsの実装に前向きでない場合は、OPCHやオンプレミスのSkype for Businessについて議論が必要になります。いずれにせよ、AudioCodes One Voice for Microsoft 365は、カスタマーの展開をスムーズなものにする製品やサービスを提供します。

進行中の取引に関してまず質問すべきこととは？

主要な質問はMicrosoft Teamsの計画に関するものが中心になると思われます。これはTeamsが新しい『Skype for Business Online』サービスだからです。『考慮すべきこと』をテーマにしたセッションをカスタマーと行い、Igniteで公表された変更点や、カスタマーの現行計画に対する影響の可能性について話し合しましょう。AudioCodesのソリューションの観点からすれば、『今日動いているものは変わらず明日も動く（何も変わらない）』ということをお客様に伝えて差し支えありません。

CCEが既に展開されていることについて、カスタマーに伝えることとは？

カスタマーにとっての良いニュースは、既にカスタマーはPSTNアクセスをSkype for Business Onlineのユーザーに提供できる実用的なAudioCodes CCEデバイスを持っているため、Teamsでも接続できる環境が整っていることです。MSFTがTeams Hybrid Voiceを用意できれば、カスタマーは既存のCCEデバイスを『別の用途で使用する』ことができ、Teams Hybrid Voiceの環境に接続することができます。

AudioCodesのソリューションの価格設定は今回の変更の影響を受けるのか？

いいえ、弊社の価格設定に変更はありませんが、追加的な提案や商用モデルをご用意しており、移行に伴う苦勞を軽減することができます。

変化するアーキテクチャをカスタマーに売り出す最適な方法とは？

まず、マイクロソフトの今回の変更により、イノベーションや生産性の向上、Intelligent Communicationなど、カスタマーは必要とする全ての機能を利用することができます。ただし、これに必要な統合や接続性への取り組みには、スケジュールと予算の面で課題が発生します。しかし、この問題はAudioCodesと弊社のビジネスパートナーが生み出す相乗効果で対処できます。弊社の製品ポートフォリオは、OPCHまたはMicrosoft Teamsのいずれかを検討しているカスタマーにとって役立つ内容となっています。この新しいオプションは、プロジェクトを実施中の組織が検討するものであるため、最大の懸念は取引のタイミング及び減速の可能性です。そこでAudioCodes CloudBond 365とIP電話を売り出すことで、投資の大半を守り、リスクを低減させます。弊社のパートナーが提供するプロフェッショナルサービスと併せ、カスタマーの期待に沿うような形で、Microsoft Teamsへの移行を漸進的かつ安全に実現することができます。したがって、今回の変更に関わる先を見越した動きと、それに続く投資保護が、変化するアーキテクチャを市場投入する上で最適な方法と言えます。